

科目名称：	社会的養護 I	
担当者名：	和泉 美智枝	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
虐待を代表的な例とする身体的あるいは社会的困難や危機に遭遇し、通常の生活が維持できなくなった場合、社会的養護サービスが必ず必要であることを十全に認識でき、併せてこの事実を学問的にも実践的にも解明し、それをどのような手立てでもって解きほぐし調整することが望ましいかを考えていく。その中で子どもの生活基盤の構築を促すべく専門職としての自覚を深める。		
授業の達成目標・到達目標		
(1) 社会的養護の基礎概念・原則・体系等を学び社会的養護の大枠をつかむ。 (2) 社会的養護サービスの実践事例に多く接し、二年次の保育実習 I の基礎とする。 (3) 自立の概念について具体的援助活動を学びつつ確立する。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)		30	50	20	100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容 1》 児童福祉施設指導員	《経験年数 1》 2年
	《内容 2》 特別支援学校教諭	《経験年数 2》 25年
	《内容 3》	《経験年数 3》
	《内容 4》	《経験年数 4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 社会的養護の基礎概念(その1)	事後に障害のある人との出会いについて文章化を課す	40分
第2回 社会的養護の基礎概念(その2)	事前に渡す「児童福祉法」(抜粋)に目を通す	20分
第3回 「子ども観」を考える(歴史性、ジュネーブ宣言等)	ペスタロッチ、ルソーのいずれかについて下調べ	30分
第4回 社会的養護理論としての発達とアタッチメント	「発達」について保育原理のテキストより拾ってみる	30分
第5回 子どもと課程をとりまく状況(概観)	テキスト42~43Pを読み疑問を理し てくる	20分
第6回 子どもと課程をとりまく状況(子育て問題)	事後小レポート “子育て”と“子育て”の 概念の差異をまとめる	20分
第7回 社会的養護の仕組み(相談、措置など)	児童相談所について知っていることを書 き出す	20分
第8回 社会的養護サービスと実践事例(乳児院)		
第9回 社会的養護サービスと実践事例(児童福祉施設)		
第10回 社会的養護サービスと実践事例(障害系施設)		
第11回 社会的養護サービスと実践事例(その他各種サービス)	各種施設のうち一種を選択し、グループ で調べ学習を展開し、発表する。	80分
第12回 里親制度、養子縁組	事前にわたす新聞記事に目を通して くる	20分
第13回 虐待を受けている子どもの養護(現状・法律・具体例)	事前にわたす新聞記事を目を通して くる	20分
第14回 自立を支援する(自立とは)	テキスト196P~200Pを読んでおく	20分
第15回 自立を支援する(具体的援助活動)	事後自立とはの問いに答えて小論文を書 く	30分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 中間に1~2回小論文を課し、期末論文を最終評価とする。 中間小論文30%、期末論文50%、その他グループワーク等の学習態度の積極的関与20%		
課題に対するフィードバック		
各回の講義の最後に振り返りをさせ、次時に生かせるようにする。 この振り返り内容は、期間中2~3回のノート点検によって確認、問題があれば個別指導をする。		
教科書・参考書		
授業中に適宜資料を配付する。		